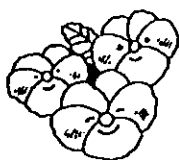


KSKP
No. 4



パンジー
だより
生田佳

発行 1993年11月

編集 クリエイトハウス
“パンジー”

毎日が追われるように過ぎていく中で、ふとみわたすと、みんなの表情がなごんできたように思える。しかし、気持ちがなごんできたということは、「これをしてもらいたいかな？」と窺っていたのが、「きっと、してもらいたいかな！」という気持ちへ移行してきたということなのだろう。大きい体格のT君が、「えーん、えーん、えーん」と、地団駄を踏むような行動が幾日かにわたって続いたときは、動きの大きさに惑わされ、悩んでしまった。お母さんと話す中で、「そうか！やはり意志表示なのだ。」と確認できた時には、あたりまえのことなのに、なぜかホッとした。その彼が、時々とてもいい笑顔を見せてくれる。

表情について、もうひとつ。まだ3回なのだが、未来さん（劇団態度の写真集を出した人）に依頼して、パンジーでのみんなの活動を写真に撮ってもらっている。「へえー。さすが、プロだ！」という素人としての感心はもちろんのこととして、なにげない日常の活動の中で、みんながとてもいい顔をしていたり、自信にあふれて（そのように見える）仕事をしていたりする写真を見ると、初めてみる表情もあったりして、まだまだ、私達は「出会っていない」という気がする。

しかし毎日通ってきて、パンを焼いたり軽作業をしたりして、給料が3000円。そこだけに焦点をあてると、あまりにもお粗末な内容なのに、みんなはこんなにもいい笑顔を見せる。それは、とりもなおさず、これまでの生活が、「一人の人間」として、どれだけつまらないものであったかの現れであろう。

こんなにいい笑顔を、パンジーの中だけにとどめてはならないと思う。社会の中で、地域の人たちとの関わりの中で見たいと思う。それに向けての橋渡し役＝スアシリテーターでありたいと思う。文章にしたらかっこよすぎるけれど、実際は、まとまらない思考をひきずりながら、それでも、街にでる毎日である。

(よしみ)

各部門より紹介



■■ ぱん屋便り ■■



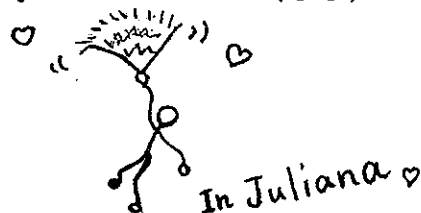
気がつけば、一年の冬を残すばかりとなりました。皆様お変わりありませんか。鴻池に移って初年度のパンジーは、毎日が初体験の連続で、びっくりしっぱなし、個性豊かな仲間に驚かされたり、笑わされたり、でもスリーシーズンを終える今日この頃、一時の緊張を経た後に、初めて現れるであろう緩みをともなったその人本来の表情が、ちらり、ほらりとみえはじめています。

そういえば、パン屋としてほぼ4年間もの実績があったにもかかわらず、この地にきてしばらくは、どうしてもメロンパンがうまく焼けない時期がありました。クリームパンやアンパンと違い、頭に重たい帽子のような皮をかぶったメロンパンは、その重石を持ち上げる様なパワーがなければ、うまくいかず、あまり毎日焼けないので、私達には、むりなのだろうか、と真剣に考えたりしたものです。

そのパンが三ヶ月を過ぎた頃よりうまく焼けはじめ、ほぼ安定した出来上がりになりました。ぱん屋の仲間と同じように、パンを膨らませるイースト菌がこの真新しい空間でのびのびと生きはじめたのでしょうか。 (ひろ)



軽作業



不景気なんてどこにいったんでしょう？という位に、仕事に追われる日々が続いたのですが、又もや雲行きが怪しくなってきたのです。ビラ配りの回転数も減り、ファンヒーター組立作業も春までないという状況です。

ビラ配りの減りで外出の機会も減ってしまったなあと気にしていた時、N君が「最近外に出てないなあ、みんな出たがってんでえ。」と言・・・。

もう一つ新しい軽作業もさがさなければなりません、それとは別に、外にでていけて、かつ、もうけられる、そしてメンバーが楽しめるといった、夢のような仕事もみつけないなあと思っています。メンバーのパフォーマンス・・・H君のジュリアナおどりとか、劇とか、音楽とか・・・個性が自身の給料へ結びついたらなあ。 (Oちゃん)

ガイドヘルパーのページ



岩山 直功

こんにちは、岩山です。「パンジー」のヘルパーを始めてから6回になりました。

最初はどううまくできるだろうか、途中で事故でもおこしてしまわないだろうか、職員さんやメンバーの方とうまく会話ができるだろうか、といろんな不安がありました。しかし、思い切って飛び込んでみると、職員さんはやさしいし、メンバーは明るいし、今までにもっていたイメージとは全然ちがっていたのでびっくりしました、と同時に安心しました。

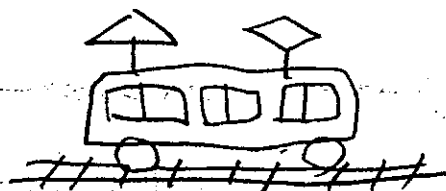
それからヘルパーとしての体験談をいえば、何といてもグリーンピア三木でしょう。この時のペアは西尾さんで、私はそれまでに西尾さんを知らなかったものだから、バスに乗って西尾さんと対面した時の印象は強烈でした。工事現場ではくようなズボンに、赤いTシャツと金色のネックレス、おまけにバスの中なのにサングラスまでかけている。正直にいきますと、この時の私の気持ちは「なんだこりゃ!」だったのです。でも話をしてみると、こちらの言うことにはきちんと答えてくれるし、楽しいことがあるとニコニコしてくれるので、一緒にいていだけでも楽しい人でした。

しかし、喜んでばかりはいられません。彼らは口に出しては言わないが(又は言えないが)、こちらの不手際でいやな思いをたくさんしていると思うのです。

梅原君の場合は、電動車イスに乗っていたのですが、私が勝手に回りの迷惑になると思い、耳もとで右だの左だのうるさく言うものだから、最初は笑顔でむかえてくれたのに、最後は無視されてしまいました。家に帰って反省してみると、体が思いどおりに動かない上に足で操作しているのだから、真っ直ぐに進まないのがあたり前なのです。あの時は、本当にアブナイと思った時だけ言うえばよかったと思います。この手の失敗は他にもいっぱいありました。

自分の理解不足と同時に重度障害者とのコミュニケーションの難しさを痛感しました。でも失敗したからといって止めてしまうのではなくて、本では得られない経験をバネにして、同じ失敗を繰り返さないようにやっていきたいと思っています。これからも他の人たちを参考にしながらヘルパーをやっていきたいと思っています。

ガイドヘルパーさんからの感想



※ 今日は村上君とペアでした。彼は電車好きで、行きは電車ばかり見ていました。自分で切符も買えるし、あやめ池遊園地の乗り物の選択も、食事のメニューの選択も、すばやくしっかりしているので驚いた。だから、最初村上君は「ひとりで行く!」といいはったが、そのうち手をつないできて「今日は一緒!」と行動を共にしてくれた。

※ うちのグループは、何かと個性派ぞろいでいろいろな面で助かりました。時間が足りない気がして、もっとゆっくりと見れるぐらいの時間がほしいと思いました。またゆっくりといきたいです。

※ 今日は最初だけ班行動で、あとは園内を北川くんと2人でまわった。2人でまわると他のメンバーにあわせて動かなくていいので北川くんのペースで動けたと思う。

忘年会

交通のご案内

忘年会 12月18日(土)のおしらせ

・時間 1:00~4:00

・場所 なにわ会館

大阪市天王寺区石ヶ辻町19番2号

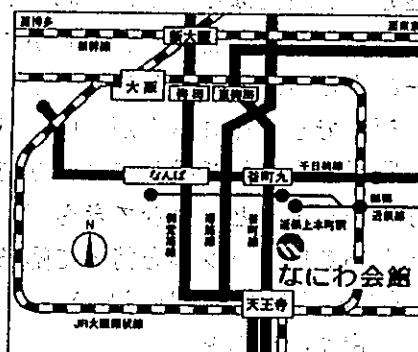
Tel 06(772)1441

・会費 5,000円

・立食パーティー(バイキング)

カラオケもあります。

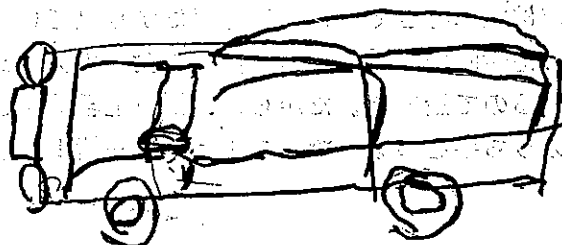
急で申し訳ありませんが、参加される方は、12月11日までにパンジーへご連絡下さい。



- ・大崎南駅空港から(ハイウェイ経由).....約30分
- ・新大塚駅から(地下鉄).....約40分
- ・大塚駅から(地下鉄・JR).....約30分
- ・天王寺駅から(バス・地下鉄各路線).....約15分
- ・なんば駅から(近鉄・バス).....約10分
- ・近鉄上本町駅から(徒歩).....約3分
- ・地下鉄谷町九丁目から(徒歩).....約8分
- ・市バス上本町六丁目から(徒歩).....約5分
- ・大塚空港へは、近鉄上本町駅、阿倍野、なんば、天王寺から専用バスが通称しております。

パンジーに関わる人々

ラン人エース



清水一恵



寝屋川東小学校

柳 久子

廊下をパンジーの人たちがパンを運んでくる気配がします。やはりそうです。ガラッと戸が開き、入ってきます。

ここは、小学校の職員室です。建て増して、建て増して校舎をつないでいるので、廊下は迷路のようです。この迷路のような廊下を運んで来てくれます。

職員室に入ると、パンを机に並べてくれる人、領収証を書く人、机上のパンチの中の紙を手にとって、またもう一方の手に移し、飛び跳ねながら、それを繰り返して、最後はごみ箱に入れて帰る人と、それぞれの過ごし方をして帰ります。

二年半前に出会って、それから、週に一回会うだけの付き合いですが、パンジーの人たちが来てくれるのを楽しみに待つようになりました。

運んできてくれる人が、段々パン屋さんになっていきます。

職員室中を飛び跳ねていたひできが、パン箱のそばにできるようになりました。なんかちょっとずつひできも変わってきていると感じていました。一年ぐらいたったある日、パン箱を持って帰るひできに会いました。

「ご苦労さま、ありがとう。」

と、声を掛けると、

「ありがとうございました。」

と、返ってきたのです。

パンジーは、一人ひとりをパン屋さんに育てていくのですね。

そんなパンジーが大好きです。



がくしゅうコーナー ♪

『障害者の自立と親の自立』 (4)

by 楠 敏雄

これまで私は障害児を持つ親の意識についてかなりシビアな評価を行ってきた。私があえて親の意識の分析を強調してきた理由は、障害者の自立を進める上で、親及び家族との関係を問い直すことが不可欠であると考えたからに他ならない。

障害者の自立に関しては二つの側面から検討を加えなければならない。その第一は、形態としての自立であり、第二は、意識面における自立である。形態における自立とは、すなわち、親や家族からの独立した生活を送ることであるが、それは必ずしも、居住する家を完全に分離することを前提としてはいない。むしろ必要な条件は世帯の分離であり、障害者自身が生計の主人公となることである。それは、また金銭面、とりわけ生活費に関しては、親・兄弟に依存しないということである。もちろん障害基礎年金や生活保護を受給して生活を送っても、それは立派な自立なのである。

一方意識における自立（これが障害者にとってはより一層重要なのだが）とは、いうまでもなく自己選択と自己決定にもとづく生活や生き方を行っているということの意味する。いかに障害者自身が生計の中心者となっても、日々の生活を介護者やボランティアの指示にもとづいて過ごしていたら、あるいは毎日テレビを見、パチンコや飲酒にあけくれるなど感情のおもむくままに暮らしているは、真の意味での自立した生活とはいえない。「それでも自分で決めているのだから自立ではないか」との反論が返ってくるかもしれない。しかしながらその選択はあまりに消極的であり、ほとんど社会性のない生き方であり、食べるためとごく手近にある快楽にふけるといった、野獣や野鳥に極めて類似した生活であると言わざるをえない。

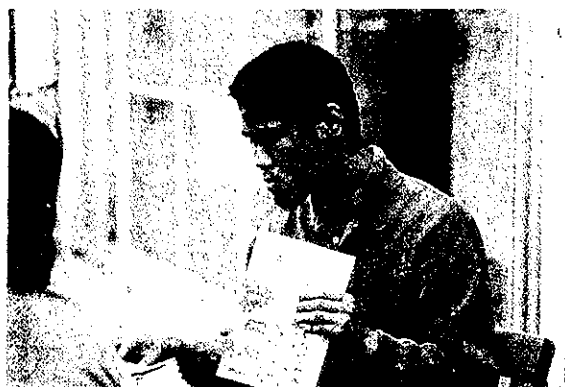
私たちは今後とも障害者の自立を単なる形の上だけのものに終わらせぬためにも、自立のあり方を幾度となく問い直さなければならない。また障害者と親との「親ばなれ子ばなれ」をも、より積極的におしすすめる必要があるのではないだろうか。 おわり

今回で楠さんの担当が終わります。ありがとうございました

次回から牧口さんの予定です。

(8)

KSKP パンジーだより No. 4 通巻2560号 1993年12月 4日発行





ニユーフェイス
だよー

メンバー紹介



森下 純一 (もりしたじゅんいち)

僕は阪神タイガースとガンバ大阪のファンです。僕はオッチョコチョイです。僕は鉄道が好きです。僕は中森明菜と西田ひかるが好きです。僕は学校の頃、自己紹介で「兄弟は何人ですか？」って聞かれて、3人ていうところをうっかり、30人ってこたえてしまいました。

これからのレクリエーションの予定です。

- 12月18日(土)……レクリエーション・忘年会(上本町六 ナニワ会館)
- 12月25日(土)……外出活動日(クリスマス)
- 1月8日(土)……初詣
- 1月29日(土)……外出活動日
- 2月5日(土)……ユートピア
- 2月26日(土)……外出活動日
- 3月5日(土)……スポーツ観戦
- 3月26日(土)……外出活動日

ガイドヘルパーとして
参加して下さる方、連
絡をお待ちしています

御協力ありがとうございます。

＜カンパ、寄付をいただいた方です＞(敬称を略させていただきます。)

岩山 直功

川端 利彦

吉田 美栄子

＜後援会員になっていた方です＞

埴下 智里

ボーナスカンパをお願いします。

パンジーでは、レクリエーション活動、体験宿泊、自立生活への援助などみんなの社会的経験や生活の幅を広げる「自立生活部門」の充実に取り組んでいます。が、残念なことに活動を裏付ける財政的な基盤が、現在の制度にはありません。パンジーの活動の主旨に賛同してくださる方、遠くてパンジーに来るのは難しい方、時間的にゆとりがなくて介護は無理だけど資金的援助ならばできる方、カンパのご協力をお願いいたします。

郵便振替番号 大阪5-300551

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8

クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818

“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会

大阪市城東区東中浜2-10-13

緑橋グリーンハイツ1F・アド企画気付